

## 第2回（仮称）さっぽろ未来医療プラン策定専門委員会会議における主な意見等

### 1 委員の出欠状況

13人中11人出席（欠席：小川委員、徳田委員）

### 2 主な意見

#### (1) 札幌の医療に関するデータブックについて

- データブックは配布をもって公開としたい。本日の配布資料は案として考えてほしい。

#### (2) 国・道の動き及び前回会議での議論を踏まえた計画の構成等について

- 認知症についても計画の中に盛り込んでほしい。
- 一般市民向けに分かりやすい概要版をリーフレットのようなもので作成してほしい。
- 市民における医療の受け方の適正化が課題。限られた資源を有効に活用するという点において市民のリテラシーを上げるような取り組み支援が必要で、市民に伝わりやすいように工夫してほしい。
- 増える医療需要に対処するだけでは不十分である。
- 資料2-1「在宅医療等の医療需要（人）」のデータが「札幌区域」となっているが、札幌だけのデータを示してほしい。江別、千歳あたりは独自に計画を検討するという話があるので、個別の数値が出ているのではないか。（→札幌だけの数値はなく、推計として札幌圏の数字を示している。人口比でいうとこのうち82.2%程度が札幌にあたる）

#### (3) 札幌市の医療体制の現状と課題について

- 資料3の周産期医療体制の個別課題の相談体制「産婦人科救急相談電話認知度の向上」とあるが、#7119(救急相談センター)と相談者への対応システムが異なるが、統一する意向はないのか。（→現状維持の方針）
- #7119(救急相談センター)の認知度向上が進んでおらず、ステッカー等現状の取り組みだけでは足りないように思う。興味を引くアイデアや、メディアを使った大々的な広告も検討してほしい。
- 訪問看護ステーションや訪問看護師に相談することによって解決する部分も多いのではないか。
- 医療体制を考えるときに、札幌市は医療法上で規定されている分野だけが対象となっている印象があり、介護保険分野と連携した計画作りを行ってほしい。極力医療と介護の分野がオーバーラップできるとよい。

(→どこまで盛り込めるかという点はあるが、介護保険の計画と整合性を持って、市民に分かりやすい計画作りをしていきたい)

- 今後在宅医療が進む中で、フォーマルな医療だけでなく、インフォーマルな医療（地域での見守りなど）も重要となってくる。こうした分野の他の計画（地域福祉社会計画など）とも関連付けて進めてほしい。
- 計画のネーミングを市民に分かりやすいものにしてほしい。
- 外国人観光客の救急対応も含めるのか、対象の幅を検討してほしい。  
(→基本的には市民を優先して考えたい。書きぶりは検討したい)
- かかりつけ医・かかりつけ薬局の重要性も含めて検討してほしい。
- かかりつけ医の普及促進に向けては、市民の不安や疑問に答えるコミュニケーションが大事であり、こうした取り組みを進めていけるよう計画に盛り込んでほしい。
- 市民がかかりつけ医を持つためには、医療機関同士が情報交換を行い、医療機関間で情報の鮮度に格差が出ないようにすることもひとつの方策では。
- 栄養士が在宅医療などにもう少し入り込めるとよい。

### 3 今後議論すること

次回は理念、目標、計画のタイトルなど案を示してご意見頂きたい。

第3回は5月23日（火）18：30

第4回は6月の予定